

ぼくのあいぼう

鹿児島県 日置市立妙円寺小学校 四年

有元 颯良ありもと さつら

ぼくの名前は、「そら。」双子の兄は、「りく。」ぼくたちは、いわゆる二卵性双生児。そして、二つ歳のはなれた姉がいる。ぼくたちは、いつも姉の半分ずつ。お部屋も二人で一つ。おもちゃも文ぼう具も洋服も、姉に比べると、ぼくたち二人で姉一人分。だから、小さいころ、

「何だか、双子だから半分ずつで、かわいそうだね。」と、親せきから言われたこともあった。

でも、本当のところはね、それは、全く大ちがいののだ。なぜなら、ぼくたちには、うらわざがあつて、おもちゃも本も、おたがい交かんして、二倍楽しめるのだ。しかも、授業の忘れ物をしたときは、姓が同じだから、かし借りしてばれなかつたり、得意分野の宿題を交かんして楽できたりなど、双子ならではの特典がある。あと、なんととっても、常にそばには、あいぼうがいて、さびしかったり、たいくつだと感じたりしたことがない。

しかし、最近気付き始めたこともある。それは、性格が全く正反対に仕上がってしまったということだ。四年生ともなると、性格のちがいがから、習い事や学校のせいせきなどのさがはつきりしてきた。りくよりやりたい気味のぼくは、周りから

「何でそらは、りくよりもできないの。」と、とやかく言われ始め、あまりいい気がしないこともあった。「このまま二人にさが開くと、そらはずつとりくと同じではいられないね。」

と、母から言われたときは、さすがにまずいと思った。なぜなら、ぼくらは、二人で二倍人生を楽しむ予定なのだ。だから、ぼくは、がんばらなきゃと思いついた。ぼくの今年の日ひょうは、「りくよりがんばること」だ。今、必死でがんばっているところである。

このように、双子は、半分ずつでかわいそうに見えて、さい高なことが多いのだ。二人でちえを出して勉強や練習をなまける作戦を考えたり、こわい雷の日は、二人で毛布をかぶってまあ安全で平気だつたり。家族へのプレゼントも、二人からあげると二倍よろこんでもらえておとくだしね。

「りく、同じ日に生まれたからには、おじいちゃんになつて死ぬまで、ぜつたいいっしょだからね。ぼくの双子でいてくれてありがとう。これからも二人できょう力していたずらしたり、ぼうけんしたりして、たくさん楽しもうな。」